

1. 野辺山営農ソーラー事業の概要

農家が主役・長野県最大級・日本最高地点にある営農ソーラー

31,863㎡の広大な農地を利用し、農業とソーラー発電の営農ソーラーを開始。
また隣接する別荘をリノベーションし、地域振興の拠点として活用する民間主導型事業。

概要	<p>【ソーラー発電事業】 農地に太陽光発電設備(定格出力AC 1,500kW) 太陽光パネル出力(DC)▶1,611kW(両面発電) 電力変換装置出力▶1,500kW(ファウウェイ製)</p> <p>【農業】 ソーラーの下部に55棟の農業用ハウスを建て、農作物(ホウレンソウ、ブルーベリー、原木椎茸など)を栽培。</p> <p>【別荘リノベーション】 敷地内の既設別荘をエネルギー自立型に改修、視察・研修・観光などトランスローカルな交流拠点として活用</p>
事業期間	2022年10月より売電開始、2024年8月深井戸完成 2025年5月からホウレンソウ本格栽培開始、26年度にエネルギー自立型別荘へのリノベ予定、27年にブルーベリー収穫と観光農園化予定
事業費	5.7億円(税別、補助金利用なし) (太陽光発電設備:3.9億円、農業設備:2.2億円)
CO ₂ 削減	約2,230,000kWh/年(計画値) 約956,670t-CO ₂ /年(計画値)



発電効率よりも農作業のしやすさを優先し、作業機械のサイズに合わせた設備設計。営農の面でも地主農家、若手営農者を中心として農地再生を進めている。

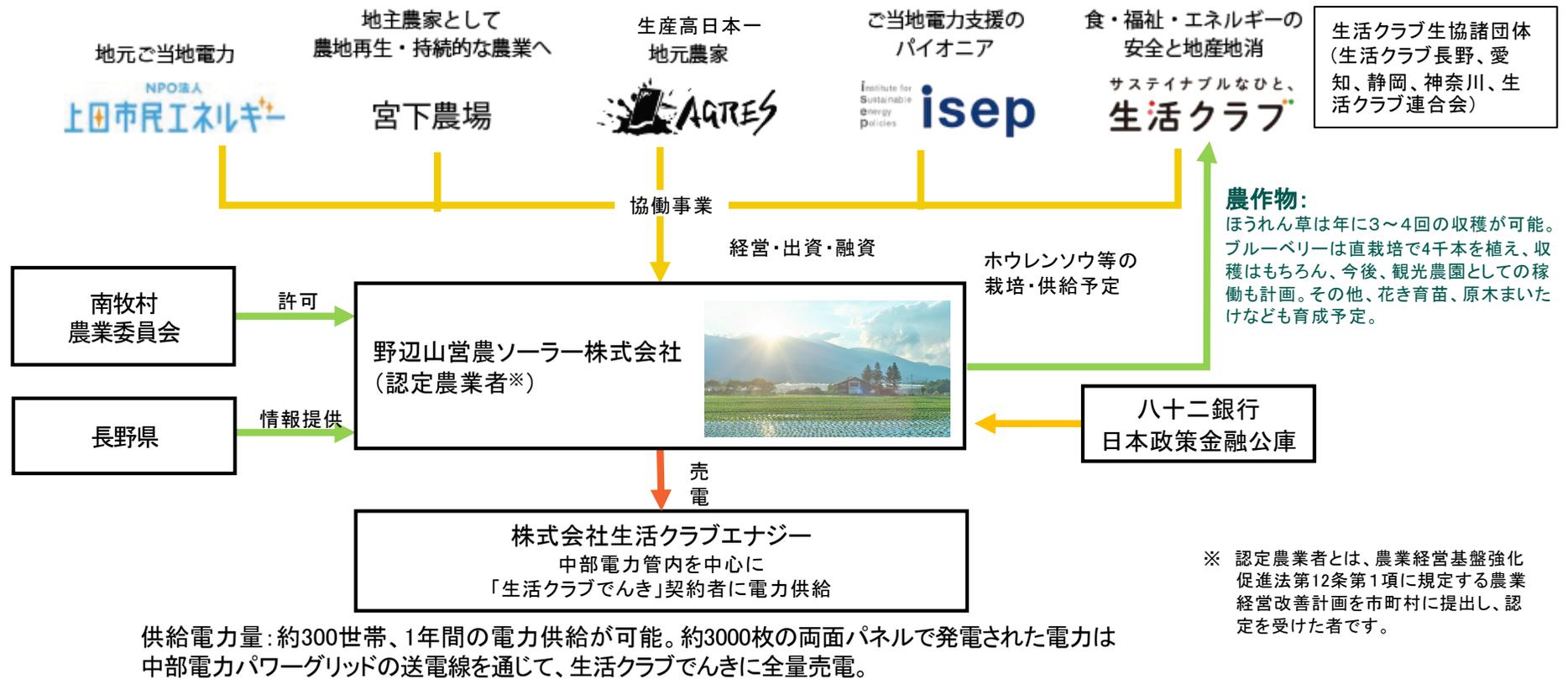


【写真】さがみこファーム提供

2. 野辺山営農ソーラーを支える共同事業者

持続的な農業の実現と地域活性化の可能性を探る事業連携

環境エネルギー政策研究所(通称ISEP ご当地エネルギーのパイオニア)の助言と伴走のもと、発電事業者かつ認定農業者である野辺山営農ソーラーと、設備の下で農業を行う代表事業者である宮下農場(同)と若き地元農家である(株)アグレスと、それらの取り組みをサポートする生活クラブ生協諸団体(生活クラブ長野、愛知、静岡、神奈川、生活クラブ連合会)、上田市民エネルギーが共同。



「営農ソーラー事業」により、深井戸の掘削費や農業ハウス等の農業資材費を確保でき、3ヘクタールの耕作放棄地を優良農地として再生するとともに、地産地消の再生可能エネルギー事業が経営の下支えとなる

3. 地域の主体性と農家が主役の営農ソーラー

農家が主役・長野県最大級・日本最高地点にある営農ソーラーであり、地域内外からの注目を集め、視察やヒアリング依頼も殺到。

「農家が主役の営農ソーラー」としてはもちろん、「野辺山ヌーボー」というコンセプトで農業×エネルギーを超えた地域づくりの構想が注目を集めている。

○交流拠点整備による交流・定住人口増加

交流拠点を整備することで農業体験や宿泊を目的とした地域外の人を呼び込み、地域活性化や定住につなげる。

→落成式では長野県副知事や南牧村長など多数のご来賓や地元関係者が集い、地域密着店を集めたマルシェと地元在住の方によるパフォーマンスなど総勢約200人の方々が現地に集合し、地元メディア等で取材された。

→事業推進のため、デザイナー、カメラマン、設計者の採用など地元協力者を発掘、採用。

→定期的に現地案内会、視察等を行うことで興味関心を持つ方々と現地を利用した具体的な事業連携の可能性も検討。
また地域の方々に他地域から文化体験事業や地域で必要となるテナント、スペース等の提供も可能。

○農作物出荷量の増加

2030年に向けた指標として、農産物(ホウレンソウなど)出荷量の増加(10%増)を掲げており、今後の農業収入の向上が期待される。

→雇用創出、税収等での地域貢献も期待できる。

○持続的な農業の実現と地域活性化への貢献

高原野菜の産地として有名な野辺山において、農地として作物生産が可能な状態を維持しながら太陽光発電を実施することにより、持続的な農業の実現に寄与。また、木の伐採や農地の整備、敷地に隣接した別荘の整備・管理を地元企業に発注しており、地域活性化に貢献している。



4. 地域での連携と波及効果

持続的な農業の実現と地域活性化の可能性を探る事業連携が進む

ほうれん草やブルーベリーを活用した観光農園化やブルーベリーカフェのような観光交流としてトランスローカルな展開を企画

○生活クラブ生協と長野県内の消費材の提携生産者で発足した「ぐるっと長野協議会」との連携により、それぞれの団体が持つ生産、製造、消費の力を生かしている。

ほうれん草等の農作物の量産が安定次第、素材提供し、新商品開発の可能性を探りたいなど声も。ほうれん草を間引いたほうれん草を利用した本格的サグカレー等の販売も検討

○地域コミュニティの場を『野辺山ヌーヴォー』とし、具体的ビジョンを共有しながら仲間を募ったことで、協力者との連携がスムーズに。また連携相手の紹介も簡単に。

○2025年春には4千本のブルーベリー苗を植え、今後の6次化に向けての整備



○4千本のブルーベリー苗が実を付け始める2027年頃に向けて観光拠点整備



【写真】さがみこファーム提供

○さくほりビングマーケットへの出店



○イギリスの大学院大学でのプログラムにあるワークショップの開催地の一つになる



5.先進性とこれからの展開

2026年春より、野辺山にて本格始動 自然と人が豊かさを分かち合う多様性の場づくりを目指して



ソーラーシェアリング設備のもと、花卉・ほうれん草栽培・ブルーベリー栽培+併設する別荘をエネルギー自立型にリノベーションしたコミュニティの場。常設飲食店、各種ワークショップやイベント開催、研修・合宿での宿泊滞在など、さまざまな領域で一緒にできる仲間を募りながら少しずつ、つくっていきます。

仏語で「新しい」を意味するヌーヴォー/nouveauの文字を「述べ合う」とも読んで、自然と人間、あなたとわたしの間に「対話」を築き、丁寧な関係性を育むための場をひらきます。

【3つのキーワード】

ソーラーシェアリング
営農型太陽光発電

自然エネルギー

×

農業(花卉・ほうれん草)



トランスローカル
地域内外が混ざり合う

地域コミュニティ

×

都市コミュニティ



セルフディスカバリー
自分自身と向き合う

自己変容・自己創造

(研修・合宿)

